

34. 熊本大学先進マグネシウム国際研究センター改善計画書

領域	改善計画 (H27. 3. 31現在)	改善状況① (H27. 12. 1現在)	改善状況② (H28. 12. 1現在)
教育	(法人評価までに改善する計画) 教員・研究者・技術支援員の質の向上に継続的に努め、新たに整備された研究拠点を活用して最先端の研究を強力に推進させる。	平成27年12月の改組をめざし、医療機器評価分野の研究機能を強化するため、新たに「生体機能評価分野」(併任教員2名、客員教員1名)を設置する改組をおこなっている。	・「生体機能評価分野」に新たに客員教授1名(米国)を配置した。 ・航空機への応用研究分野を開拓するために、卓越教授1名(米国)をH29.3に配置する手続きを完了した。
	(2年間で改善する計画) 海外および国内の企業および研究機関との共同研究を積極的に実施し、これにより教員・研究者・技術支援員の質の向上に継続的に努める。また、新たに整備された研究拠点を活用して最先端の研究を強力に推進させる。	今回の改組では、自然科学研究科および生命化学研究部の教員2名の併任、医療機器用素材の加工技術で実績のある産業総合技術研究所(産総研)の客員教員1名としての招聘を行っている。また、不燃性KUMADAIマグネシウム合金を用いた次世代航空機材料の応用をめざして米国企業と共同研究を開始している。さらに、KUMADAIマグネシウム合金製ステントの開発のため、実用化の実績がある国内ベンチャー企業とも連携し、開発を進めている。	・スタンフォード大学医学部循環器内科より客員教授として1名を招聘し、学生対象のセミナーを開催した。 ・BoeingのTechnical Fellow1名をH29.2に招聘して、学生対象のセミナーを開催する準備を進めた。
	(次の組織評価までに改善する計画) 共同研究並びに本センター独自の研究による研究成果を確実なものとすると共に、これらの活動を通じて教員・研究者・技術支援員の質の向上に継続的に努める。また、新たに整備された研究拠点を活用して本センターでしかできない独創性がきわめて高い研究を強力に推進させる。	KUMADAIマグネシウム合金が持つ不燃性という有意味な多くの機会(セミナーやMECT2015(メカトロテックジャパン、名古屋市、4日間、来場者数約7万人)などの大規模技術展覧会など)で紹介し、知名度を上げるよう努めている。これらの対外的なイベント、また下記に示す定期的に開催しているマグネシウム合金に関する研究会を確実に開催することにより、教員・研究者・技術支援員の質の向上に継続的に努めている。 平成27年7月6日:「MRC International Learning Program: The 1st Seminar 2015」 平成27年7月13日:「MRC International Learning Program: The 2st Seminar 2015」 平成27年7月15日:「MRC International Learning Program: The 3rd Seminar 2015」	・平成28年8月25日-26日東京ビックサイトにてJST20周年記念展示、平成28年11月1日-2日金沢駅前にて「Matching HUB Kanazawa 2016」パネル展示等対外的なイベントでKUMADAIマグネシウム合金を紹介し、知名度を上げるよう努めている。 ・下記に示す定期的に開催しているマグネシウム合金に関する教育プログラムを確実に開催する事により、教員・研究者・技術支援員の質の向上に継続的に努めている。 平成28年7月28日:「MRC-KU International Education Program (Together with MRC-KU International Learning Program)」 平成28年9月12日-14日: MRCサマースクール2016 平成28年12月1日: MRCセミナー
研究	(法人評価までに改善する計画) 平成26年~28年において実施される頭脳循環、また自然科学研究機構の整備に伴い、海外やポスドクなどの研究者の招聘に継続的に努める。なお、マグネシウム合金に関する国際共同研究をボーイング社と行っているため、海外との交流は一部避けている。	頭脳循環にはセンターの専任教員や併任教員を3名派遣し、実績を挙げている。平成27年度の頭脳循環プログラムのもとでの海外招聘者は以下のとおりである。 平成27年6月23日-7月17日: トリアッティ州立大学アレクセイ ウィノグラドフ教授 (Prof. Alexei Vinogradov: Togliatti State University, Russia)	・頭脳循環にはセンターの専任教員や併任教員を3名派遣し、実績を挙げている。 ・平成28年度の頭脳循環プログラムのもとでの海外招聘者は以下のとおりである。 平成28年7月25日-7月31日: ノルウェー科学技術大学アレクセイ ウィノグラドフ教授 (Prof. Alexei Vinogradov: Norwegian University of Science and Technology, Norway)
	(2年間で改善する計画) 平成26年~28年において実施される頭脳循環、また自然科学研究機構の整備に伴い、海外やポスドクなどの研究者の招聘に継続的に努める。	頭脳循環にはセンターの専任教員や併任教員を3名派遣し、実績を挙げている。平成27年度の頭脳循環プログラムのもとでの海外招聘者は以下のとおりである。 平成27年6月23日-7月17日: トリアッティ州立大学アレクセイ ウィノグラドフ教授 (Prof. Alexei Vinogradov: Togliatti State University, Russia)	・頭脳循環にはセンターの専任教員や併任教員を3名派遣し、実績を挙げている。 ・平成28年度の頭脳循環プログラムのもとでの海外招聘者は以下のとおりである。 平成28年7月25日-7月31日: ノルウェー科学技術大学アレクセイ ウィノグラドフ教授 (Prof. Alexei Vinogradov: Norwegian University of Science and Technology, Norway) ・MRC International SymposiumとLPS02016国際シンポジウムを開催して、国際交流を図った。 ・産学官交流会「高性能Mg合金創成加工研究会」を5回開催したとして、産学官交流を図った。 ・住友電工共同研究部門に特任助教1名を配置し、産学共同研究の推進を図った。
	(次の組織評価までに改善する計画) 平成26年~28年において実施される頭脳循環、また自然科学研究機構の整備に伴い、海外やポスドクなどの研究者の招聘や雇用に継続的に努め、本センターの国際化を推進する。	知能循環にはセンターの専任教員や併任教員を3名派遣し、実績を挙げると共に、共同研究部門に外国人特任准教授を1名採用し、本センターの国際化を推進している。	・頭脳循環にはセンターの専任教員や併任教員を3名派遣し、実績を挙げると共に、外国人専任助教1名、共同研究部門に外国人特任准教授を1名、計2名設置し、本センターの国際化を推進している。 ・英語版のセンター紹介ビデオ(MRS-TV)を作成し、公開した。 ・医療機器研究の勉強会を毎月開催して、医療機器研究の推進を図っている。
社会貢献	(法人評価までに改善する計画) 今後も、男女共同参画の取組に沿った専任教員の公募を継続する。また、本学育児・介護支援制度の周知と利用推進を図り、全学の男女共同参画推進の取組に連携した活動を推進する。	構造体化部門の助教1名の公募に際しては、公募要領に明記し、男女共同参画の取組に沿った専任教員の公募を継続している。	公募に際しては、公募要領に明記し、男女共同参画の取組に沿った専任教員の公募を継続している。
	(2年間で改善する計画) 男女共同参画の取組に沿った専任教員の公募を継続する。また、本学育児・介護支援制度の周知と利用推進を図り、全学の男女共同参画推進の取組に連携した活動を推進する。	構造体化部門の助教1名の公募に際しては、公募要領に明記し、男女共同参画の取組に沿った専任教員の公募を継続している。この方針は今後も継続して維持する。	公募に際しては、公募要領に明記し、男女共同参画の取組に沿った専任教員の公募を継続している。この方針は今後も継続して維持する。
	(次の組織評価までに改善する計画) 男女共同参画の取組に沿った専任教員の公募を継続すると共に、本学育児・介護支援制度の周知と利用推進を図り、全学の男女共同参画推進の取組に連携した活動を行う。	構造体化部門の助教公募に際しては、公募要領に明記し、男女共同参画の取組に沿った専任教員の公募を継続し、全学の男女共同参画推進の取組に連携した活動を行っている。	公募に際しては、公募要領に明記し、男女共同参画の取組に沿った専任教員の公募を継続している。この方針は今後も継続して維持する。

領域	改善計画（H27. 3. 31現在）	改善状況①（H27. 12. 1現在）	改善状況②（H28. 12. 1現在）
その他 （男女共 同参画）	<p>（法人評価までに改善する計画） これまでの研究活動を維持し、さらに各分野の有機的発展のため、各分野の人員補充に関して継続的に要求する。</p>	<p>平成27年12月の改組では医療機器評価分野を新設するなど、各分野の人員補充に関して継続的に要求している。</p>	<p>これまでの研究活動を維持し、さらに各分野の有機的発展のため、各分野の人員補充に関して継続的に要求している。</p>
	<p>（2年間で改善する計画） これまでの研究活動を維持し、さらに各分野の有機的発展のため、各分野の人員補充に関して継続的に要求する。また、本センターの研究設備を学外者が利用する際の施設設備利用に対応した負担料金を明確に定め、利用の更なる促進を図る。</p>	<p>平成27年12月の改組では医療機器評価分野を新設するなど、各分野の人員補充に関して継続的に要求している。また、本センターの研究設備を学外者が利用する際の施設設備利用に対応した負担料金を明確に定め、利用の更なる促進を図っている。</p>	<p>これまでの研究活動を維持し、さらに各分野の有機的発展のため、各分野の人員補充に関して継続的に要求している。また、本センターの研究設備を学外者が利用する際の施設設備利用に対応した負担料金を明確に定め、利用の更なる促進を図っている。</p>
	<p>（次の組織評価までに改善する計画） これまでの本センターとしての研究活動を維持・発展させると共に、各分野の人員補充を確実に行う。また、本センターの研究設備を学外者が利用する際の施設設備利用に対応した負担料金を整備して利用の更なる促進を図り、研究を推進させる。</p>	<p>平成27年12月の改組では医療機器評価をめざした「生体機能評価分野」を新設するなど、各分野の人員補充に関して継続的に要求している。また、本センターの研究設備を学外者が利用する際の施設設備利用に対応した負担料金を明確に定め、利用の更なる促進を図った。</p>	<p>これまでの本センターとしての研究活動を維持・発展させると共に、各分野の人員補充を確実に行う。また、本センターの研究設備を学外者が利用する際の施設設備利用に対応した負担料金を明確に定め、利用の更なる促進を図っている。</p>